

今日の説教のポイント<使徒言行録 26 章 19~32 節

①伝道に心血注ぐパウロの姿が聖書で一番伝わって来る箇所！

福音を熱く語りかけるパウロの姿が目には浮かぶ箇所です。フェストゥスとアグリッパ王は彼の話の聞いても信じませんでした。パウロの迫力と熱心さに圧倒され、彼が語る特異な内容を否定し切ってはいません。では、ここでパウロは何を熱く語っているのでしょうか？

②神がおられるということ、その神に立ち帰れということ

復活の主が彼に現れたこと、それが彼にとって決定的であることは先週の箇所でお話ししました。今日の箇所で、彼は全ての人に、「悔い改めて神に立ち帰り、悔い改めにふさわしい行いをするように」と伝えていきます(20)。ここで、「悔い改めて」と「神に立ち帰り」は同じ意味の言葉を重ねています。それは「方向を変える」という意味です。その方向を変えた先に、パウロを捕えられた神がおられるのです！ ですから、「悔い改めてにふさわしい行いをするように」とは、「この神に向けて生きる者となりなさい」ということであって、それなしに、正しい生き方を考えることではないのです。

③真実 (神はおられる!) なことと、理にかなったこと (主イエスは復活された!) が繋がる時

パウロは、「**真実で理にかなったことを話しているのです**」(25) と言っています。私はこれを読んで、次のような二つのことを繋げて考えさせられました。一つは、神様がおられることは**“真実な”**こと。復活の主がパウロに現れられたのだから！ もう一つは、500年以上前に書かれたイザヤ書 53 章が告げる「苦難の僕」の内容。それが**“理にかなっている”**ということです。どういうことかということ、「義人が罪人のために代わって苦しみを負い、それによって罪人の罪が赦される出来事が起こる」というイザヤ書の預言。それを起こされるのは神様。しかし、それがまさにイエス・キリストにおいて成就しているではないか！ 実に**“真実な”**神様だからこそできる、**“理にかなった”**イエス様による驚きの救いの御業！ 私たちはこの驚きの恵みに満ちた神様と聖書のパウロを通して出会えたのです。これも驚きの奇跡です！